

(1) 新しい宇都宮の将来都市構造に関する調査研究

1) 研究のねらい

- ・宇都宮市においては、自動車交通への依存、中心市街地の空洞化と郊外大規模店舗の増加という現状を踏まえ、公共交通の活用も念頭に置きつつ、長期的な視点から新しいまちづくりを検討することが課題となっている。また、犯罪の増加など、安全・安心なまちづくりを進める必要性も高まっている
- ・さらに視野を広げれば、人々の日常生活圏は行政区域を越えて拡大しており、周辺の市町村とのネットワークの形成や、さらには首都圏における宇都宮市の位置づけを検討する必要がある。本調査研究では、このような重層的な都市構造の観点から、宇都宮市が今後どのようなまちづくりを進めていくべきかを検討した

2) 経 過

- ・研究方式 自主研究 / (財)日本都市センター研究室(東京都)との共同研究
- ・研究の流れ 共同研究締結(16.7)
研究会の設置(16.8) 座長 大西隆 東京大学先端科学技術研究センター教授
研究会の開催(16.8~17.2) 委員報告(7名)及び意見交換、計5回
現地調査の実施(16.10) 再開発事業、工業団地、宇都宮環状道路等の視察
シンポジウムの開催(17.1) 基調講演、パネルディスカッション、職員146名参加
研究会のまとめ(17.3) 「新しい宇都宮の都市構造に関する研究会報告書」

3) 研究結果 (研究会報告書)

逆都市化時代の宇都宮

「保全」や「再利用」時代の到来

- ・これからの50年は、新規の開発はあまり重要ではなくなる。都市に人があまり増えないため、新たな都市域を拡大する必要もない。むしろ、既に都市になっている場所をどのようにして手を加え、あるいは、維持していくのかということが大きなテーマ。その際には、都市と自然との共生、保存、再利用といった発想が重要視される。

重層的な都市構造の視点から見た宇都宮

首都圏(1都7県)における宇都宮

- ・情報や交通のネットワーク化により、従来の東京中心部との一方向の交流が、広域化、多方向化していくことが予想される。そこで、東京一極依存構造から分散型ネットワーク構造への改編を図る必要がある。
- ・国土縦断軸の連携・交流を進めるうえで、宇都宮は重要な役割を果たすものと考えられる。しかし、横軸の連携・交流を進めない限り、ますます「通過都市」化が進む恐れがある。
- ・東京を中心とする放射方向の交通体系は「消費軸」(人の流れ)、環状方向の交通体系は、

「生産軸」（物流）である。北関東自動車道等，地域を環状方向に結ぶ交通体系の整備により，宇都宮は，新たな連携・交流の結節点としてさらに発展する可能性がある。

首都圏における地理的・地形的優性をさらに活かした都市構造を構築することが重要。首都圏内外にわたる広域的な連携・交流の要として、拠点の整備を進め、諸機能の集積および新たな活動を育成する。

宇都宮都市圏における宇都宮市

【 土地利用 】

- ・恵まれた地形を活用し，都市的な活力と田園的な魅力を兼ね備えた自立性の高い地域の形成を図り，ゆとりと安心のある都市生活環境の整備や自然環境の保全・活用にも配慮した市街地の整備を行うことが必要である。

無秩序な市街地の外延化を防ぎ，秩序ある土地利用を図る

都市圏内の地域相互間の交流・連携を促進する仕組みやネットワークの整備を進めて，高次の都市的サービスと豊かな自然とのふれあいが同時に享受でき，多様な暮らしが選択できるようにする（宇都宮シティ・リージョン）

【 まちづくり 】

- ・宇都宮市域にとどまらず，宇都宮都市圏全体にわたって都市機能を分担・分散する「分都市化」（開放型水平ネットワークシステム）のもと，一極集中型から多核心型の都市構造へ転換していく
- ・人口減少時代の到来に向けて、限られた資源を有効に活用するまちづくりのあり方を考える必要がある。その際、資本の論理ではなく地域の論理でまちづくりを行う必要がある。

高齢者は中心部で公共交通軸に近いところに住み、若い家族は郊外で自家用車を使った生活をするというような、選択肢のあるライフスタイルができるような都市構造のまちをつくる。

【 地域産業の活性化 】

- ・全国有数の工業都市圏らしく，域外マネーの獲得において，製造業が孤軍奮闘しており，製造品出荷額も近年増加している。しかし，製造業の就業者数は減少傾向にあり，域内再投資も一部（電気機械器具製造業等）を除き低調である。また，製造業は，一般的に輸出依存度が高く国際要因の影響を受けやすいことから，持続性・安定性に不安なしとしない

関連企業が相当程度集積する特定分野（例：家電産業）について，産学官の人的ネットワーク構築を基盤とする産業クラスターとして，「宇都宮都市圏ものづくりクラスター」の形成を目指してはどうか。

宇都宮都市圏：宇都宮市および宇都宮市に就業者数の10%が通勤する周辺16市町を合わせた圏域（人口およそ90万人）を指す

現在の宇都宮市域 - 中心市街地・市内交通・コミュニティの視点から -

【 中心市街地 】

- ・都心に魅力があることで宇都宮市の「都市の格」が決まる。都心部に魅力がなければ、宇都宮市以外の住民は集まってこない。多くの人々が名前を聞いただけで行きたいと思う都市とは、良い繁華街を持っている都市であり、そのネームバリューは大きい。中心市街地ならではの魅力をつくる必要がある

中心市街地のことを考えるうえで、宇都宮市のまちづくりの大きな方向として、ヨーロッパ型のコンパクトシティ、アメリカ型の自動車社会、ネットワーク型社会の中でどれを目指すのか、少なくとも宇都宮市の構想レベルで方向性を決める

【 市内交通 】

- ・交通がまちづくりを変える。ただし、交通はあくまで手段であり、目的はまちづくりである。そのためにどのようなまちをつくれれば良いのかという議論をしていかななくてはならない。例えば、「コンパクトシティ」をつくるには公共交通中心の交通体系とセットになってはじめて可能となる